

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学実習Ⅲ (地域連携に関する実習)	2	前期	1	実習 45時間
担当教員	松本幸枝、中島洋一、路璐、出口和彦、飯塚裕美、土屋忠則			
授業概要	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、クリティカルケアからシームレスな地域、在宅への移行と連携について、また、対象者を中心とした地域連携における急性・重症患者専門看護師の役割と機能について考察する。			
到達目標	プレホスピタル、また退院後にクリティカルケア看護を必要とする対象者へ直接的看護介入を実施する。医師または看護師にスーパービジョンを受けることで、患者理解とともに、クリティカルケアにおける地域連携について考察する。			
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 救急自動車に同乗し、救命救急士の指導のもと、対象者に救急蘇生法を行う。 突然の出来事によって緊急搬送を要請した、心理的危機的状況にある家族への看護介入を行う。 プレホスピタルの役割と地域連携について考察する。 在宅でクリティカルケア看護が必要な対象者に、看護師の指導のもと在宅酸素療法への看護介入、人工呼吸器装着した患者の看護介入、気道クリアランスに関連した看護介入を行う。 在宅でクリティカルケアが必要な患者とその家族の生活環境を考察し、コンフォートケアについて提案できる。 *詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。 			
教科書	指定なし			
参考書	適宜紹介			
評価方法・基準	討議への参加(20%)、レポート(80%)とし、総合的に評価する。			
事前・事後学習	事前学習：実習前に提示された資料を読んでおく。 事後学習：実習の後関連した文献等を含め、実践を振り返り考察する。			
備考	実習場所：館山消防署・亀田訪問看護センター 実習期間：2024年6月の1週間(4日/週×1週間)			